

# ぜんそく起こす仕組み解明

## 山梨大医学部グループ、学会誌に掲載

山梨大は二十二日、同大医学部の中尾篤人教授(西五)の研究グループが、たばこの煙がぜんそくを引き起こすメカニズムを解明し、研究内容が米アレルギーぜんそく免疫学会誌電子版に掲載された、と発表した。喫煙がぜんそくの発症原因になることは確認されていたが、その仕組みはこれまで分かっていなかった。

中尾教授の研究グループは、体内で免疫の働きを調節するタンパク質の一つで、アレルギー型の免疫反応を起こさせる「TSLP」に注目。マウスの鼻にたばこの抽出物を付けて喫煙状態にし、ぜんそくを引き起こす過程を調べること、喫煙によって肺の

## 研究者「発症予防につながる」

中にTSLPがつくられることを証明した。

さらに、たばこの煙だけではなくぜんそくは発症せず、ダニなどアレルギーの原因物質(アレルゲン)を喫煙時に吸い込むことが、発症条件になることも分かった。

喫煙するとアレルゲンが体内に入りやすくなり、TSLPの作用とともにアレルギー型の免疫反応を引き起こす。たばこの煙成分が細胞の障壁機能を弱めている可能性があるという。

花粉症などのアレルギー性疾患についても、スギ花粉などのアレルゲンを喫煙時に吸い込めば、同じメカニズムで花粉症を発症させることが推測できるという。中尾教授は

「TSLPを活性化させない薬やたばこの開発など、喫煙によるアレルギー性疾患の発症予防につなげられる」と話している。

# たばこの煙